

情報連絡員報告・4月分

製造業、非製造業ともに売上高DIが悪化

～多くの業界で原材料の値上げが経営を圧迫～

<東京都中央会>

4月の情報連絡員報告によると、製造業・非製造業ともに前月では改善した売上高のDI（前年同月比）が悪化（製造業12.3ポイント、非製造業4.7ポイント）した。特記事項として多くの業界から原材料の値上げが売上の減少と収益性の悪化をもたらし、経営を圧迫しているが、その対策として価格に転嫁することができない苦しい中小企業の現状が報告された。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

「食料品」

・地方の同業者は行楽シーズンを迎えて受注が増加しているが、材料の値上げがあり、利幅が少なくなっている。

「印刷」

・資材の値上げが始まり、不安感が強まっている。

「化学ゴム」

・塗料の出荷数量は全般に上昇しているが、原料高騰のために収益にはむすびついていない。

・原油市況は軟化と反発を繰り返し、3月の原油輸入価格は19年ぶりの高値となった。原料コストアップに見合った市況

形成が望まれる。

「窯業・土石製品」

・砕石の需要が低迷したままであることに加えて、原油の高騰による燃料の値上がり売上の減少につながっている。

・原材料の値上げを承認しなければモノが入らないという状況。コスト高・製品安の状況が続いている。

「鉄鋼・金属」

・停滞基調は変わらず、鋼材の再々値上げが一段と加速するなか価格転嫁しにくい状況に加えて、コストダウン要請で収益性は悪い。

・総じて悪化傾向。中国・韓国との政治的軋轢に期待する向きがあるが現実には

受注はのびていない。

- ・ 原材料、副資材の高騰分を価格に転嫁することが困難な状況。
- ・ 4月の荷動きは総じて弱含みで推移している。価格も大手メーカーとの交渉中で現在ヤマ場を迎えている。

「輸送機器」

- ・ 売上が減少に転じてから1年が経過し、材料の値上げが厳しい状況をさらに悪化させている。

「その他製造業」

- ・ 依然として原料の値上げの影響により収益性は悪化し、今後もさらに悪化する気配。

「卸売業」

- ・ 原料高の影響で仕入れ高をユーザーに転嫁しようとしても受け入れられない状

況。

- ・ 高騰する原料費を価格に転嫁できるかの重要な局面を迎えている。

「小売業」

- ・ 産地からの直売が大きな影響を及ぼしている。また米食離れが顕著となり、売上減少につながっている。
- ・ 大手にできない小回りや店の個性を生かした商品で「おいしさと安全、安心」を提供できるかが存続につながる。

＜要望事項欄より＞

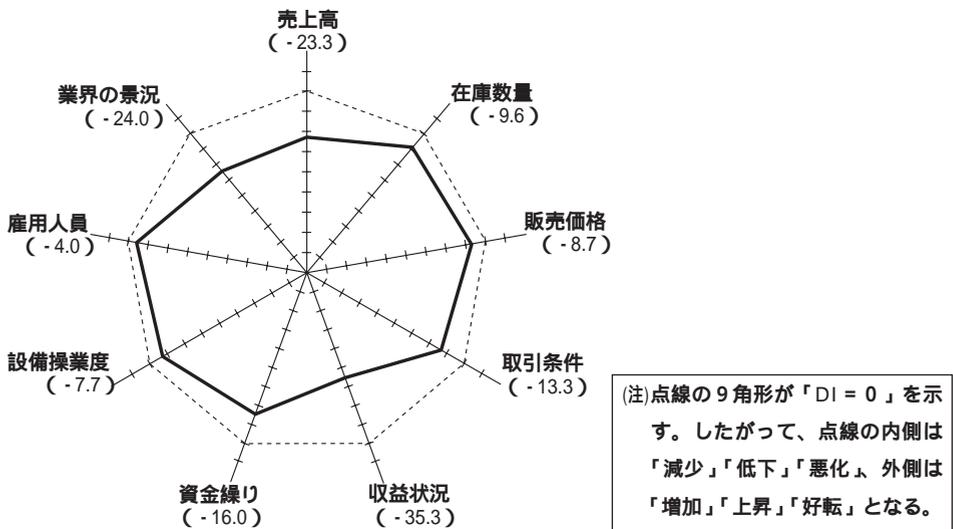
- * 原油高の高騰をふまえ、公共事業の設計単価の見直しをすべき。

[窯業・土石製品]

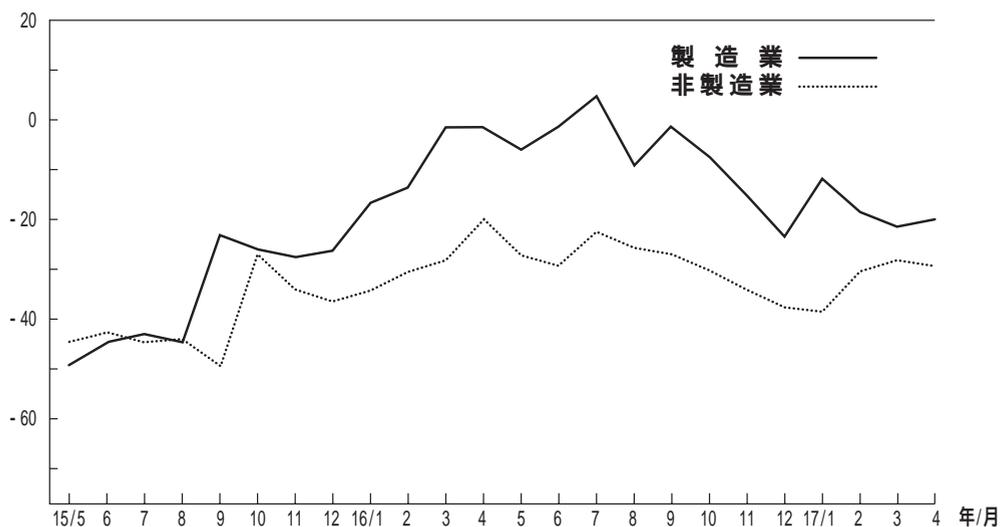
- * 健康とスポーツ、青少年教育とスポーツの関係育成に力を入れてほしい。

[その他製造業]

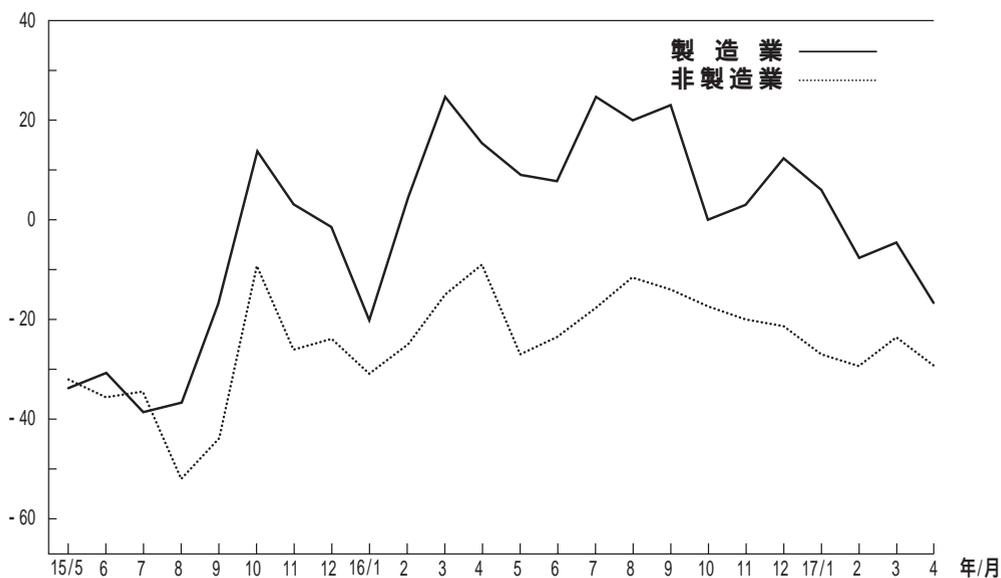
4月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



業界の景況DIの変化 (H15.5 ~ H17.4)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H15.5 ~ H17.4)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。